

第68回埼玉県美術展覧会審査評

【第6部 写真】

審査主任 もりやま 森山 つねひさ 常久

68回展の出品は、20点増え、総数1,325点、入選点数456点、入選率は34.4%でした。2点・3点出品者も多数いらっしゃり、県展への熱意を感じます。また、マットパネル使用方法を示したチラシを同封した効果的なのでしょうか。搬入時にパネル等の不備も少なくなり、スムーズに受付を行うことができました。開催要項に沿って出品いただきましたことに深く感謝申し上げます。

審査は、9人の審査員により、4次審査まで投票を行い、賞決めまで厳正に行いました。今後も、高性能になるカメラと、身近になるデジタル編集により、写真を趣味にして、いろいろな場面で撮影し、そのことをずっと楽しみにしていただきたいと思います。また、切り取られた画面から、時代に合った、見る人のイメージを膨らませ、見る人に何かを思い起こさせる写真が次回展も数多く出品されることを期待します。

・埼玉県知事賞

たたず 「佇む」 いとう 伊藤 はるこ 春子

スナップ写真なのでしょうが自身を投影させての「佇む」に昇華させ、画面に映りこむ全ての物の色合いと質感がそれを強く意識させ、登場人物の目線を見せないことで、写真を見る側からの視線で誘導し作者の心象をも感じさせてくれます。スナップ写真だからこそその強さと良さが出たと思います。秀逸な作品です。

・埼玉県議会議長賞

「^{きおく}記憶の^{そこ}底」 ^{かねこ}金子 ^{まさき}政喜

最初から意識を確立させた難しいジャンルの心象風景です。心象風景の写真は、見る人に伝わらない事の方が多いと思います。この作品は画面上の白の線を奥に手前に横に写しこみ、光と影を左右の写真に配置したシンプルな画面構成が効いています。

記憶らしき物を、その果てまでを考えさせた結果、作者の意図を間違いなく感じさせてくれました。じっと見つめる人が浮かんで来る、自身の記憶の底を感じてもらえる作品だと高く評価します。

・埼玉県教育委員会教育長賞

「^{かわら}川原の^{えんそうかい}演奏会」 ^{おかち}岡地 ^{ひでお}英男

何でも無い川原の草を、こんな風に写真に出来るんだと思わず見入ってしまう素晴らしさを感じました。モノクロにする事で画面上の情報量を少なくして、歌う草達(だと思います)を画面一杯に写しダミ声やソプラノが聞こえて来るようです。何よりも楽しんで此処でシャッターを押している作者が見える事が一番の評価です。

・埼玉県美術家協会賞

「^{しょうりん}照臨」 ^{いしかわ}石川 ^{たみお}民男

広々とした空間風景の中に、ある時間、ある光を自意識の中に描きハンターの様にじっと待ち、待った甲斐が写真に出るのか、否か。意識と合致した時の至福の喜びが写真に閉じ込められるか。思考錯誤の繰り返しなのでしょう。

この3枚には見えます。計算できない光の中で変わって見えていくモノたち、刻々と変わる空と雲の色、それらの意識の中に止めた事を。

何よりも空間が照臨に壊されていない事が好評価に繋がりました。

・埼玉県美術家協会賞

「隠れる帽子」
かく ぼうし いりえ かずお
入江 一男

大きな帽子で顔が隠れて、ということでしょうか。その事で少女の心が映し出されて来たようです。遠く先の光のボケが写真全体の奥行感、色調、切り取りの確かさ、それらも相まって少女の心を更に増幅させて見せてくれます。写真にすることが上手い作者だと感じました。

・埼玉県美術家協会賞

「神域」
しんいき しむら すけお
志村 祐夫

神社の境内でしょうか、この場の独特の空気を描き出す事に主眼を置き、白と赤と緑の色を各写真に大胆に配置して、1枚目の白を導入部とし2枚目の赤を大きく使い、3枚目の緑を色だけを流して完璧に神域の空気を描き出しています。コンセプトを事前にキッチリと思い描いての作品作り、それをきっちり成功させたことを、神業のようだと賞賛します。

・埼玉県美術家協会賞

「しじまの中で・VENEZIA」
なか ヴェネツィア ともきよ かずちか
友清 和親

夜半VENEZIAという町を写し歩く作者のおかしみが伝わって来るようです。シビアな映像の中になぜか、一枚一枚の写真はシャープに切り取られ色調も他国の色を感じさせ「しじま」という空気をも、キチンと

見せてくれます。雨の中の抱擁のようなカットがホッコリさせて、そんなおかしみを感じさせているのかも。達者な作品と言えるでしょう。見応えのある作品です。

・さいたま市長賞

ぼくしん
「爆進」

はなだ ひろこ
花田 寛子

ばんえい競馬のワンシーンでしょうか、鮮やかにきれいに描き、躍動感を更に強調した画作り幻想の世界に、作品を見る人を引き込ませるような仕上げになっています。後処理の大事さが成功した傑作だと思います。もちろんシャッターを落とした時の感動がそれらをつなげる事になるのですが。

・さいたま市教育委員会教育長賞

しょくにんだまし
「職人魂」

はりかえ まさお
張替 政雄

暗めのトーンにして作り出される物の質感をキチンと描写し、人の動きを的確に処理しています。それが3枚目の無人の光るモノたちへ視線を落とす導入となっています。その絵作りが作品を見る人に伝わり、3枚の写真を使って、見る人をも動かす事が出来ていると思います。完成度の高い作品だと思います。

・埼玉新聞社賞

きょうしゅう
「郷愁」

あんざい よしえ
安齋 悦江

デジタルの絵作りだからこそ、増幅された郷愁、柿の絶妙な色合い、黄昏時の全体の色調が登場人物の郷愁を感じさせ、動きと郷愁のオンパレ

一ドなのですが決してくどくならず、全てが一つの方向に統一されて動いているからなのでしょう。とても見やすく心地よく、見る人の郷愁を、喚起させてくれます。

・時事通信社賞

「^{きねん び}記念日」

「^{いなむら いずみ}稲村 泉

街角のポスターなどが、題材でしょうか。(違ったら、ごめんなさい。)だから凄い写真だと評価しました。当然トーンはなくなり、往年のモノクロフィルムの色合いを醸し出しての色調、一枚一枚の意味ありげな形、およそ記念日という言葉の概念とは相容れない、作者だけの記念日につながっているという事で完結している意味での秀作だと考えます。

・FM NACK5賞

「^{えがお すだ}笑顔で巣立ち」

「^{とだ としかず}戸田 利一

とにかく何の注釈もいらない、可愛いの一言だけで、言い切ってしまう作品です。画面上で可愛さを作り出しているもの、少し斜めにしている鼻の2つの赤子、表情、それに何と言っても上部にある出来すぎのような、赤の花びら(だと思えます)、周りの色合い、奥行のレンズ特有のボケミ。楽しく可愛い作品です。

・埼玉県美術家協会会長賞

「^{とうきょう}東京ベイ」

「^{ねもと みつえ}根本 美津江

夜の京浜地帯。都市の建造物が佇みそこに流れるライト、それを包み込むような海面、特に真ん中の光の小船。写真の持つ対象物にゆだねる事で

のみ表現される映像世界です。写真になりにくい場所ほどそれが出て来る
ものです。成功だと思います。

ベテランの非凡さを感じさせる作品です。

・高田誠記念賞

「凍^いてつく^{まち}町」

齋^{さいとう}藤^{ひでお} 英雄

今そこにある美、映像に起こさなくても、十二分に美が完成されている
場であえて写真にする行為、これは本当に難しいのですが、さすがにベテ
ランの本領発揮です。対象物の選定、一番きれいに映る時間を見事に切り
取った空間処理。一つでも間違えると、きりっと見えなくなるのですが、
キチンと映像に起こし、美を完成させた作品です。